

7/2(日) まいっ! 倫理号あり。白濁の近づく... ようです。おははし... 2100
園は魚... いかん? 先... 良... 思... 事...
実行にみる! 幸せ... 戸-鳥

2022. 7. 2~7. 8

今週の

倫理

7月のテーマ | 易不易の倫理

1288号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のこトばを掲載いたします。

大卒の、ある新入社員が倉庫係を命ぜられた。たいした仕事ではないような役目だ。だが彼が倉庫に入ってみて驚いたのは、山と積まれているストックの品々であった。売れ残りのものも多いようだ。年季物もある。彼はそうした品々を一々点検した。このままでは倉庫は狭くなるばかりだし、なんとか処分の方法はないものか。

値下げしても売れるものはないか。仕入れ先に返品できるものはないか。こうしたことを調べて、その具体案を上司に進言したのである。上司も気づかずにはいたことが、この進言によって、

「なるほど、これはよいことだ」

と、適宜手直しをして、やがてそれらは実行に移され、倉庫は空になり、その後は不良品が入るとすぐに処分され、良品が一定期間置かれるようになって、面目を一新したのであった。

仕事へのとりくみ方は、いろいろあるだろうが、ここはこのようにしたらもつとよくなるのではないか、このところはこうして改めたら、さらに能率があがりはしないかなどと、改良改善をつねに心がけるといふことは大切だ。

だが、自分の考えだした改善改良の内容が、いつも正しいとはかぎるまい。それら



改良改善で積極人生を

丸山竹秋

を整理して提出してみても、却下されることもあろうし、時には叱られることだってあり得る。また激論をたたかわさなくてはならない場合もあるだろう。そうしたときに、すぐ腹をたてるようではつまらない。いや、腹をたてても、なるべく早く冷静にかえられるような心の余裕をもつことが必要だ。喧嘩をして、すぐ飛びだしてしまうようでは努力したことも実を結ばないし、自分の損になるだけである。

ではどのようにしたら、研究工夫ができるのであろうか。やはり個人的な能力の問題なのであろうか。

これは何といても素直に生きるということが基なのだ。この素直というのは、何にでもおとなしくしているという意味ではなくて、五官に感ずるところのものに対して、素直に反応するということだ。気づいたことを逃さない、いい加減にほうっておかないということである。気がつかなければどうしようもないのであるが、気づいたことを直ちに処理するように平素から実行している、仕事にあたってはそのようにはできる。これは、よしあしの区別も考えずに、衝動的にやってしまったということではない。よしと頭に浮かんだそのよいことをそのとおりにする。悪いことをするのは愚かである。朝起きたときから、素直にやっていると、仕事にあたって、ふつうでは気づかぬようなことも、気がつくようになる、それが改良改善の策の実行につながるのである。『いかに乗りきるか』より)